

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2019年4月号>

145号 2019.04.01配信

新しい元号「令和」が発表されました。

昨日があり、今日があり、明日がやってきます。学園も、創立者人見先生の思いが、先生方、同窓生、そして在学生の皆さんの思いが続いているから「今日」があるのだと思います。

今後もその思いをつないで歩いていきましょう。

■同窓会だより

○3月16日（土）光葉同窓会入会式 1,355名の新会員をお迎えいたしました。

光葉都奨学金（大学院社会人入学者奨学金）を3名に授与しました。

○4月1日（月）光葉同窓会報第92号発行

○5月18日（土）全国支部長会

○5月19日（日）第46回 光葉同窓会総会 10:30~14:30

会場 昭和女子大学 学園本部館3階 大会議室

第一部 総会

第二部 テーマ「創立者人見圓吉先生の願い」

昭和女子大学の歴史、学園を築いた人々など学園創設の思いをひもときます。

第三部 懇親会 感謝の集い

○5月20日（月）同窓会ツアー

「昭和女子大学ゆかりの地 校歌に歌われる緑が丘をたずねる」

★総会、ツアーの詳細については同窓会報をご覧ください。

■学園だより

○4月2日（火）入学式 大学院・大学合わせて新入生1,536名が入学します。

○4月26日（金）創立99周年記念式 卒業後50年以上の卒業生が招待されます。

○昭和女子大学100周年記念事業企画委員会からのお知らせ

昭和女子大学100周年記念LINEスタンプを発売しました。

学生と教職員からデザインを公募し、優秀賞に輝いた本学在学生の作品が、素敵なLINEスタンプになりました。本スタンプは、在学学生や教職員だけでなく、卒業生のみなさんにも使っていただけるデザインになっています。

このLINEスタンプを使って昭和女子大学の100周年を一緒に盛り上げましょう。

↓100周年記念LINEスタンプの購入はこちらから↓

<https://line.me/S/sticker/6898412>

販売価格：120円または50コイン/1セット（40種類）

※売上金は全額本学100周年記念事業への寄付金として活用させていただきます。

○昭和女子大学は2020年に創立100周年を迎えます

創立100周年ホームページ <https://100th.swu.ac.jp/>

■ 広げよう光の葉

小山典子 1967年 家政科卒

『芝居を志して～生きていることが勉強になる』

(第5回 東京都西北6区支部総会 講演より)



小学校3年生の時『森は生きている』という舞台を観ました。目の前で繰り上げられた歌、踊り、お芝居に「あんなに自由に動けたらどんなに楽しいだろうなあ」と思い、舞台が終わってもその余韻にいつまでも浸っていたいと感じました。この時から私は心の奥に「芝居をやりたい」という思いを持っていました。芝居をやりたいという思いを持ちながら、昭和女子大学家政科に入学しました。家政科の勉強ならば、日々、生きていくうえですぐ役立つことが学べるだろうと思ったのです。短大時代は、毎日がとても忙しかったです。洋裁、和裁、刺繍、染め物と、たくさんの課題がありましたが、その時の経験が後から大変役に立ったのです。

芝居をやりたいと劇団青俳の養成所に入り、研究生・劇団員となりました。そして昭和54年に新派に入団。一條久枝先生に師事しました。「年下の先輩がいるけど、大丈夫ですか」と心配をしてくださる方もいましたが、私は「ここで、一から勉強ができる。いま、したいと思ったことをするのがいい」と思いました。自分の意志が強ければ学ぶことに年齢は問題ではありません。

一條久枝先生からは「教えてもらう」というより、普段の会話や所作から、顔（お化粧）の仕方、衣装の着方、持ち物のことなどをいろいろ学びました。わからないことがあれば「私はこう思いますけど、どうですか？」と自分から聞いていました。美術館や博物館に行って「この時代はどうだったのかな」と調べたりもしました。一條先生は舞台が終わると「こうするともっとよくなるわ」と一言、的確にアドバイスを、良かった時には「良くなったわ」と言ってくださいました。

芝居の種類、内容にもよりますが、日常やっていることが舞台で役に立つのです。普段から身につけていることであれば舞台でもできる。「普段が大事」なのです。常に何事もきちんとやっていたら舞台に役立つことがたくさんあります。『京舞』という芝居で、私が三味線を弾く場面がありました。その3曲目に三味線の糸が切れたのです。「あっ」と思いつつ三味線の師匠の糸が切れた時の姿を思い出しました。“慌てず、役に徹して、唄はそのまま続け、糸を直す格好、口三味線”。この場でこれをやるのは私の仕事です。舞台の上では誰も変わることはできないのです。そして、芝居を止めることなく臨機応変に動けたのは普段やっていることだったからです。

生きていること全てが勉強になる、なんてすばらしい仕事だと思います、一生やりたいと思っています。これからはいつまでセリフを覚えられるかな、どこまでできるかなと考えることも楽しいです。私はこの道で良かったと思っています。【End】